

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1990700088
法人名	社会福祉法人百葉の会
事業所名	グループホーム百葉南部の郷
所在地	山梨県南巨摩郡南部町南部8058-1
自己評価作成日	令和 3年 11月 6日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4年 1月 11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・新しい入居者様に職員が作った暖簾や表札でお迎えし、新しい入居者様が新しい環境に可能な限り早く慣れていただくように配慮している。  
 ・コロナウィルス感染症対策を継続しながら、外出企画(ドライブ)や室内でできる企画を実施し、お客様の日々の生活が充実したものになるように配慮している。又、実施した企画はブログや広報誌を通して、お客様の家族や地域に発信している。  
 ・コロナ感染予防の為、面会が制限される中でも家族との繋がりを大切にzoomなどにて面会を実施している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は社会福祉法人百葉の会が山梨初の複合施設として運営をされています。富士川沿いにある南部町の旧市街地隣接の「医療・福祉地区」に位置しています。地域との交流を大切に皆さんと笑い・笑い・元気を目指しています。「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を理念に「老いていくことが怖くならない未来」をビジョンに掲げられています。コロナ禍の中でできることを管理者はじめ職員が真摯に向き合い、新しい利用者を迎えるために居室に職員手作りの表札やのれんを飾り、一人ひとりが笑顔で暮らすために支援に取り組んでいます。ISO9001の認証取得・職員の人材育成、研修制度の充実にも取り組まれています。コロナ禍のため思うような支援を行うことができませんが安全安心を模索され、これからも「ここに居てよかった」と感じていただける支援をお願いいたします。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) <b>(※窓越しの面会など距離をとった交流)</b>	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム百葉南部の郷

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1階 )	ユニット名( 2階 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに、法人事業計画から施設目標、部署目標を策定し、部署会議内にて管理者と職員は目標進捗状況を確認し、実践に繋げている。	同左	法人の理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を掲げ、職員の行動方針はトップダウンでなく現場で働く職員自ら考え作り出すとされています。グループホーム、デイサービスの理念は、管理者、主任を中心に作成され、運営委員会や職員と振り返りも行われていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナウィルス感染症防止の為、ボランティアの来所と外出行事は実施できなかった。その為、地域との交流を図ることができなかったが、ブログや広報誌を通して、外部に発信した。	同左	コロナ禍のため地域交流はできていませんが、ボランティアの慰問、和太鼓、本の読み聞かせ、外部のイベント参加を行えるように検討していました。今年度はデイサービスとのお祭り等を安全安心を図りながら行っていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設間、または自施設で研修を行い、研修内容をブログや広報誌に掲載し、外部に発信している。	同左		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウィルス感染症対策の為、運営推進会議は開催することができませんでした。顧客満足度アンケートを配布し、その中でご家族様の意見を集約し、要望にお応えしている。	同左	運営推進会議はコロナ禍のため開催されていませんが、家族アンケート等を実施し意見要望を聞いていました。他のメンバーには文書で意見を聞き反映を図っていました。今後はリモート会議などが活用できる様検討し、より支援につながる会議を計画されていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者が地域の包括支援センター運営協議会等に参加し、情報共有を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	同左	代表者が市町村の包括センター会議に参加して情報収集や協力を図っていました。一昨年は4、5、6月に会議が開催され、計画書に基づき検討、振り返りが行われていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の勉強会を実施。南部の郷の基本指針をもとに身体拘束をしないケアの実践をしている。	同左	研修は法人のサービス管理者によって身体拘束のないケアなどの勉強会が行われ、事例を挙げたわかりやすい内容になっていました。やむを得ない時の記録については契約書に書かれていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の勉強会を実施。委員会を中心に会議内で進捗確認と注意喚起を行っている。	同左		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通じ、制度等を理解し情報共有をすることにより個々の知識の向上に努めている。	同左		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法改正があった際には説明会を開催しお伝えしている。契約時には重要事項説明書やリスク説明を十分に行い同意を得ている。	同左		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1階 )	ユニット名( 2階 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年顧客満足度アンケートを実施。ご本人様ならびにご家族様の意見をいただき、その対応策を管理者と職員は話し合っている。回答をご家族様に郵送、また、玄関に掲示し、外部者へ表している。	同左	運営に関する満足度調査は毎年行われ、回答や改善、対策は家族に郵送され、また玄関に掲示し外部者にも示されていました。アンケートには面会ができず、ケアが見えないとあり、コロナが落ち着いた時には、県内者に限って安全を考慮して面会を行いました。県外者はブログやリモートにて対応を行いました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議内で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。又、半年に1回職員面談を行い、その中で職員の意見を集約し、その後の運営に反映している。	同左	職員の意見は半年に2回面接を行い、会議では言いにくいことを細かく聞きとっていました。意見は主任やリーダーが参加する会議で検討し、運営に反映させていました。職員の勤続年数も比較的長く、意見の言いやすい環境ができていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に1回個人面談を実施。その中で職場環境・条件の整備を行っている。適正な職員配置の為、採用活動を行ったり、職員が働きやすい職場環境作りをしている。	同左		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は法人内の研修に参加している。また、新人達成度チェック表を運用し、新人職員の力量把握に努めている。	同左		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス感染症対策の為、リモートでの法人間研修を実施。その中で同業者と交流する機会を作り、研修を通してサービスの質の向上を目指している。	同左		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員はお客様の生活歴やバックグラウンドを調査し、日常の会話の中に活かしている。その中で、お客様が不安に思っていることなどを聞き出すように努めている。	同左		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談やアセスメントにてご家族等との関係性作りに努めている。	同左		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談後、お客様に本当に必要な支援とは何かを見極め、必要に応じて他のサービスを含め助言している。	同左		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はお客様の座席の配置や話の話題に配慮することで、お客様同士の関係性の構築に努めている。	同左		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お客様の状況に変化が見られた場合、施設だけで解決するのではなく、ご家族様に協力を要請しながら、一緒に解決する関係性を構築している。	同左		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染症対策の為、地域行事等には参加できなかったが、お客様の状況を広報誌やブログで更新することで外部に発信している。	同左	馴染みの人や場との関係継続にはコロナ禍のため制限がありましたが、職員が利用者の方に浴衣を着せてあげて、2グループホームで行う行事や誕生会を盛り上げていました。様子はブログ等で発信されていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の会話や関係性が円満になるよう職員は状況に応じて会話に加わったり、お客様の席配置に配慮している。	同左		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お客様の退去後も相談に乗れる支援体制をとっている。	同左		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議内で実施。また、お客様との会話の中から嗜好調査をし、行事で提供している。	同左	なかなか面と向かって想いを伝えてくれない中、日常の中で寄り添い探っていました。またアンケートを行った際、ケアマネジャーを中心に家族と面会した時に、今までの様子を聞いていました。必要な物は家族にお願いしていますが、家族が難しい時は職員が物品を用意していました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回相談の際、ご本人様やご家族様から聴取している。また、入居後、お客様との会話の中から経過等の把握に努めている。	同左		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は会議内での情報共有を行ったり、申し送りやケア記録を使った情報共有をリアルタイムで行っている。	同左		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を実施し、その中でお客様の状況を協議し、計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。	同左	サービス担当者会議は、定期的に行い、担当者を中心に、利用者個々の支援が計画に沿って行われているか、また振り返り等も行われていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録や申し送りノートでお客様の状況や気づきを情報共有し、その情報をもとに計画作成担当者は介護計画書を作成している。	同左		



自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス担当者会議や会話の中からニーズを把握し、ご本人様やご家族様の状況にあったサービスを提供している。	同左		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	代表者が地域の包括支援センター運営協議会等に参加し、情報共有を行い、協力関係を築けるように取り組んでいる。	同左		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はお客様とご家族様のご希望を尊重し、意思決定を行っている。職員はお客様の状況を常に主治医に報告し、情報共有を行っている。	同左	かかりつけ医は原則家族が付き添って通院されていますが、コロナ禍でもあり訪問医の受診が行われていました。家族との連携も取れ、それぞれの情報の共有ができていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員はお客様の日々の状況や気付きを訪問看護師や併設のデイサービスの看護師と情報共有を行っている。	同左		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	計画作成担当者が主になり、病院相談窓口や担当看護師と密に連携し、関係性作りを努めている。	同左		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お客様の重度化やターミナルへの対応に伴い、ご家族様や主治医、訪問看護師、職員を交えてサービス担当者会議を開催し、その方向性を明確にしている。	同左	終末ケアについては入所時に本人家族に説明し、また契約書にも記載がされていました。訪問看護サービスの利用で健康状態や介護状態が共有されて終末ケアの検討もされていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	お客様の急変や事故発生時は法人の統一マニュアルに沿って対応している。	同左		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は年間2回の防災訓練を実施している。また、訓練の際は消防署の協力を得ながら行うことで、地域との協力体制を築いている。	同左	災害の訓練は年2回実施され地域との協力も築けていました。近くには富士川があり避難所も確認されていました。職員間で緊急対応の連絡方法も確立されていました。災害時の対応として食料等備蓄もされていました。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常にお客様の側の立場に立ち、お客様一人一人の人格を尊重し、声掛けや対応を行っている。	同左	職員は利用者のプライバシーを守り、尊重されていました。利用者の男女比は1対17です、職員は6対11で比較的男性職員が多いですが、排せつ、入浴時は同性介護に心がけていました。できない時は本人の許可を得ての介助が行われていました。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はお客様となじみの関係を構築することで、お客様が自己決定ができる環境を作り上げている。	同左		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の希望に対応し、その人にあったペースで過ごしていただいている。	同左		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中の服装は、お客様が自由に選定し、職員はお客様のその人らしい身だしなみを尊重している。	同左		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様のレベル低下に伴い、食事の準備や片付けが困難になってきているが、食事もお客様の楽しみになるように嗜好調査を行い、行事に提供している。	同左	食事の楽しみの一つとして外食等行っていました。コロナ禍の為制限していました。行事食、希望食、誕生会等、変化のある食事が提供されていました。最近ではお餅つきがありました。嗜好調査を行ったり、食事の用意や片付けなど利用者のできることを行って食の楽しみを感じられるようにしていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録に食事量や水分量を記載し、把握している。その状況に応じて、お客様に声掛けを行っている。また、他施設の管理栄養士が月に1度来所し、栄養指導を受けている。	同左		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、定期的に歯科医が往診し、メンテナンスを行うことで、口腔内の清潔保持に努めている。	同左		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケア記録に排泄のタイミングを記載し、それを把握することで、お客様の習慣にあった排泄を行うことができている。	同左	一人ひとりの排泄記録を取り、個々にあった支援がされていました。オムツから日中はリハビリパンツの使用になった方もおり、入所時から改善するケースも見られます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員はお客様の排泄状況を把握することで、お客様一人一人にあった飲食物の提供や運動への働きかけを行っている。	同左		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様一人一人に声掛けを行い、希望に沿って入浴をしていただいております。	同左	個々の希望に沿った入浴が行われ、1日4人ぐらいでゆっくり入浴されています。週2、3回、夏場は多少回数が多くなっています。冬場は拒否される方もいるためタイミングを見て声掛けされていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調をみて必要に応じ声掛けをしているが、基本はご本人のリズムにて休息をして頂いている。	同左		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホーム百葉南部の郷**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( 1階 )	ユニット名( 2階 )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋、薬情書を職員間で情報共通し、間違いない服薬支援をしている。	同左		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中、塗り絵や創作活動、編み物などお客様だ思い思いに趣味活動ができるように職員は支援している。また、天気の良い日は外を散歩するなど、刺激のある日常を過ごしている。	同左		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナウィルス感染症対策をしながら、蜜を避け、ドライブなどを行っている。	同左	外出等は2か月に1回ほど行われていましたが、コロナ禍のため家族との外出も自粛されていました。安全対策を行い少人数でのドライブ、お花見などで対応されていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル回避の為、預り金は廃止している。金銭については立替金にて処理をしている。	同左		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お客様の希望する場合やご家族様からの電話があった場合、職員はその支援をしている。年賀状や手紙は職員が読み聞かせることで、支援をしている。	同左		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の創作物を飾ることで、季節を感じていただいているほか、共用の空間に刺激がないように配慮することで、お客様に居心地よく過ごしていただいています。	同左	居心地の良い空間作りは季節の花や飾りつけを行い、家庭的な雰囲気を感じられるような工夫がされていました。利用者がゆったりくつろげる配慮がされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様の状況や希望により居室と共用の空間を使い分け、職員はお客様が思い思いの時間を過ごせるように声掛け支援を行っている。	同左		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れたものをお持ち込みいただき、なじみの物に囲まれた空間で過ごしていただくよう配慮している。	同左	居室は今までの生活を保てるように、使い慣れたものを持ち込まれていました。日常使っていた食器や筆筒、中にはご仏壇を持ち込まれる方もおられます。居室の整理は家族、または職員と行い居心地の良い空間になっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はお客様の身体状況に合わせて、導線を確保し、職員は常に安全に配慮している。	同左		